

Profile

- 名古屋工業大学工学部 卒業
- 東北大学大学院工学研究科博士前期課程 修了
- 東北大学大学院工学研究科博士後期課程 修了
- 長崎大学歯学部助手→助教授
- Oak Ridge National Laboratory, MST division, X-ray and Thin film physics group 客員研究員
- 名古屋工業大学機械工学科 特任准教授
- 兵庫県立大学大学院工学研究科 准教授

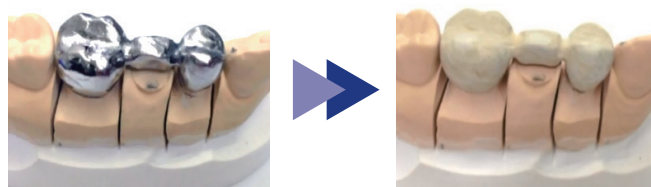
歯科材料としてのチタンを研究しています。

金属アレルギーが出にくいことから、体に優しいといわれるチタンは、プラスチックやセラミックスといった従来の歯科材料に比べ、耐久性に優れ、変色もほとんどありません。研究が実用化すれば、歯の治療方法に大きな進化をもたらします。

Q1. 歯医者さんで使う歯科材料として、チタンを研究されているようですが、どのような研究でしょうか。

金属でできているクラウンやブリッジという人口の歯をチタンで白くしようという研究をしています。

チタンは軽くて強いので、薄くできるというメリットがあります。また、金属そのものはセラミックスに比べると割れにくい、プラスチックに比べると劣化しにくい、というメリットがありますので、金属を使いたいという希望が多いです。しかし、チタンに限らず金属はどうしても金属光沢があり、黒っぽい金属の色が透けて見えてしまうデメリットがあるので、歯医者さんや技工士さんは白い金属がほしいとよくおっしゃいます。



Q2. 研究は、日々どのようにされているのでしょうか。

自分の研究をしたり、学生と一緒に実験したり、あるいは実験結果についてディスカッションもします。授業もありますし、毎日忙しくしています。

Q3. 研究と家庭の両立はどうされているのかと思ったのですが、単身赴任中だそうですね。

そうです。夫と子どもには大変面倒をかけています。夫の協力も大きいですが、実家の両親も大変助けてくれていますので、平日の子どもと家のことは夫と両親に全部任せています。さみしいですし、心苦しい気持ちは勿論ありますが、その分週末や長期休暇は家族と楽しく過ごす様にしています。平日に研究に集中できることは、ある意味メリハリがついて、単身赴任のいいところだと思います。

Q4. 理系や工学の分野で研究を続けていきたいという女子学生や、先生のように女性研究者として頑張りたいという後輩の皆さんに、アドバイスをお願いします。

女性は、結婚や出産などのライフイベントにより、仕事か家庭か選択を迫られるときが必ずありますが、両方続けてほしいと思います。大学時代の恩師に言われた「仕事と家庭を両方やれて一人前だから、両方ちゃんと立派につとめなさい」という言葉が非常に心に残っています。実際やってみると大変ですが、若い方で、能力や才能があって頑張っているにもかかわらず、その能力を活かせないのは非常にもったいないと思いますので、まわりのサポートを得ながら、続けるという選択肢も考えてほしいと思います。あれもこれも、なりたい自分を達成していく生き方をずっと追い求めてほしいです。そして周りへの感謝も忘れずに。

Message

仕事も家庭も
両方続ける選択肢を。

